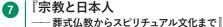
⑥ 【長寿時代の医療・ケア ――エンドオブライフの論理と倫理 「シリーズ」ケアを考える】

人生の最終段階にある患者をどのようにケアする かは、医師や患者の死生観が大きく影響を及ぼ す領域である。日本老年医学会で臨床倫理を牽 引する著者が、医療者、患者、家族の苦悩を丹 念な取材によってすくい上げ、「長命」を「長寿」 にするため医療はどうあるべきかを考える。



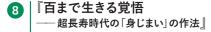
ちくま新書/2019年



歴史・文化の両面で「無宗教」とされる日本にあって、そのレッテルとは裏腹に生活の種々相に浸透している現代的な宗教と信仰のあり方を、気鋭の宗教学者が論じる一冊。特に、従来は揶揄を込めて用いられた「葬式仏教」という概念を再評価し、今日的価値と意義を認める主張は、宗教を身近に意識しない層にも十分な説得力を持つ。



中公新書/2021年



「終活はバッチリ」と答える多くの高齢者が、いざとなると子に丸投げにしている現実。本書は、家族社会学者の著者が100歳前後の長寿者、高齢者、介護や世話を担う家族に丹念な聴き取りを行い、その背後にある制度と文化の問題を浮き彫りにする。希望的観測に逃げ込まず、元気なうちに「身じまい」を考えるには必読の一冊だ。

春日キスヨ=著

光文社新書/2018年

「ボケの8割は「水・便・メシ・運動」で治る 」

「ポラリス」森氏の記事にも登場する医学博士の著者は、早くから高齢者のケアに取り組み「おむつはずし運動」を提唱してきた人物。本書は「水・便・メシ・運動」の基本的なケアが、認知症防止につながるとする独自の理論が多くの実証結果とともに紹介されている。「物忘れがひどくなる=ボケではない」「認知症の症状は脱水症状と同じ」といった言葉も、解説を読むと納得がいく。

竹内孝仁=著

健康人新書/2019年

|『「定年後|はお寺が居場所』

秋田氏が引用した「日本のお寺はNPOの原点」というドラッカーの言葉を裏付けるように、近年のお寺はコミュニティにおいて従来にない役割を果たしはじめている。婚活・子育てサポート・退職後の再就職支援・住まいの提供・看取りや「墓友」との出会い、さらには介護や医療まで、本書が紹介するユニークな事例は、お寺への認識を大きく変えるに違いない。

星野哲=著

集英社新書/2018年



趣味や余暇 (レジャー)を研究する社会学者たちが中心となって、旅行や音楽、スポーツ、さらにはテレビやギャンブルまで、さまざまな分野のレジャーのあり方を分析した本書。時代の変遷を踏まえた考察により、労働や娯楽の変化に合わせて、レジャーの概念も変化してきたことがわかる。レジャーの世界の豊かさを学ぶことは、生き方を見つめ直すことにも役立つだろう。

渡辺潤=編

宗教と日本人

「定年後」は お寺が居場所

世界哲

世界思想社/2015年

Leisure Studies レジャー・ スタディーズ ・

衝撃的な前著に続き、新テクノロジーとAIの現実化、一層の長寿化やコロナ禍、ワークスタイルの激変などを踏まえ、100年時代の生き方を提案した「実践編」。社会的開拓者として生きるためのストーリーづくりや学び、関係の結び方のほか、企業と社会が直面する課題もつぶさに示す、マルチステージ社会理解への必読書だ。

アンドリュー・スコット、リンダ・グラットン=**著** 東洋経済新報社/2021年



3 |『家庭医という選択』

日本における家庭医療の黎明期から活躍する5人の医師へのインタビューを通し、プライマリケアを担う「家庭医」の仕事をわかりやすく提示した一冊。欧米で学び、刺激を受けた医師たちが、それぞれの方法でジェネラリストを育て、地域に根づかせようと模索する真摯な姿には感銘を受ける。そして、今の医療には何が欠けているのか、感じ取ることもできるだろう。



エイチエス/2015年

4 『老~い、どん!

一あなたにも「ヨタヘロ期」がやってくる』

上野千鶴子氏の盟友が、自ら"ヨタヘロ期"と名づけた「健康寿命と平均寿命の間の10年」の悲喜こもごもを、冷静かつ温かな視点で綴る名エッセイ。衣食住の視点から長寿社会に生きる知恵を見つける内容はあくまで等身大。特に「人生後半の安心生活してよかった25のこと」は老いの暮らしを考える新たな視点を与えてくれる。

樋口恵子=著

婦人之友社/2019年

5 | 『道路を渡れない老人たち

--- リハビリ難民200万人を見捨てる日本。 「寝たきり老人」 はこうしてつくられる』

300万人以上の高齢者が青信号の間に横断歩道を渡り切ることができないという衝撃的な事実。間違った介護支援が老後の幸せを奪うと訴える本書は、正しい介護サービスの受け方や医療制度の使い方を丁寧に解説する。本人も家族も後悔しない介護とは何か、その最適解が綴られる。

神戸利文、上村理絵=著

アスコム/2021年



長寿社会の本質を捉え、 より良い未来を 歩んでいくための10冊

人生100年時代の生き方を見つめ直し、 人生の後半を幸福に過ごすためには何が必要でしょうか。 今号で紹介した事例の理解を深める10冊を選びました。



43 CEL March 2022 42